

花ちゃん、オー君、フッタ博士のわくわくドキドキ冒険記4

国立市立国立第七小学校

平成29年1月24日 NO.84 (384)



サンゴいろいろ

花ちゃん 「え！うそっー！ちがうでしょ。」

オー君 「うそじゃないよ。ほんとうだよ。」

フッタ博士「おやおや、^{ふたり}二人ともどうしたの？」

オー君 「ぼくがサンゴのことを^{どうぶつ}動物だと言ったら、^{はな}花ちゃんがちがうって。」

花ちゃん 「だって、サンゴって^{ほうせき}宝石にもなるし、^{いし}石なんじゃないの？」

オー君 「サンゴは、どう^み見ても^い生き物の^{ほね}骨みたいじゃないか。だから^{どうぶつ}動物だよ。」

フッタ博士「なるほどね。^{せいがい}正解は『^{どうぶつ}動物』だけど、それは^{ほね}骨じゃないんだな。いまから
みんなで^{すかん}図鑑で^{しら}調べてみようね。」

ということで、みんなで図書室に行ったとき・・・。

花ちゃん 「まあ、きれい！いろいろなサンゴがあるわ。でも、^{さんごしょう}珊瑚礁ってどう^み見ても
^{いし}石じゃないかな？」

オー君 「あれっ、あれあれ！イソギンチャクやクラゲの^{しんせき}親戚なんだあ。それじゃ、

骨はないよね…。」

フッタ博士「つまりね、小さいイソギンチャクが、自分たちで団地やマンションを建てて一部屋ごとに暮らしているイメージかな。その建物が硬くて石みたいなんだね。珊瑚礁を形作るような大きくなる種類は造礁サンゴと言うよ。」

オー君「自分の体は柔らかいのに不思議ですね。」

フッタ博士「それはね、ちょっとむずかしいお話になるけど、海水から必要な炭素やカルシウムを取り入れて合成するんだ。サンゴは不思議がいっぱいだよ。体に藻類を住まわせて、光から栄養を作らせる種類もいる。植物みたいだね。」

花ちゃん「わたし、こんな珊瑚礁のきれいな南の海で泳ぎたいな…。でも、北の寒い地方にはないのかしら？」

フッタ博士「サンゴは、海が暖かく浅い所が好きで、珊瑚礁を「海の中の熱帯雨林」とも呼ぶよ。そして、たくさんの生き物が暮らす場所になっているんだ。造礁サンゴの北限は、日本では千葉県や神奈川県あたりらしいね。」

オー君「図鑑にはオニヒトデが天敵って出ています。見るからに悪そうなヤツだ。」

花ちゃん「こっちの写真ではサンゴが枯れてしまっているわ。」

フッタ博士「サンゴは自由に動けないから、天敵や環境の変化にととても弱いんだ。例えば、山の木を伐りすぎて、大雨で山の泥が川に入る。それが海に流れてくると泥水をかぶって死んでしまう。」

花ちゃん「そうだったら、そこで暮らしていた生き物たちはどうするのかしら…。」

フッタ博士「せっかくだから、これも見て。大昔のサンゴの化石だよ。東北の宮城県の山で見つけたんだ。」

オー君「えっ、さっき“暖かくて浅い海が好きで”“北限は千葉県・神奈川県”って言いませんでしたか？」

花ちゃん「昔は、日本も暖かった証拠じゃないの？」

フッタ博士「そうだね。昔、海の底だった所が長い間に陸になり、山の中でサンゴが見つかるわけなんだ。当時の気候など環境が分かる化石を『示相化石』と言うよ。」

※珊瑚礁とは、大きな岩や島みたいになったものを言う。